

平成26年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト縮減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
						目標年	用地費	進捗率				
林道事業	1	経ヶ峰線	津市		【全体事業概要】 延長:14,000m 幅員:5.0m 利用区域面積:1,069ha 【事業目的】 路網の未整備な経ヶ峰周辺の森林における基幹となる林道として、林業生産活動を活性化させ、森林資源を有効活用するとともに、森林の適正管理を促進して森林の持つ公益的機能を維持増進し、また、錫杖湖周辺の観光資源から、経ヶ峰頂上へのアクセス道として、自然を生かした集客交流産業の活性化を図ることを目的とする。	H6	3,977	56.4%	延長:7,047m	津市では、平成20年度を始期とする総合計画を樹立し、間伐等の森林整備により、森林の適正な管理を推進するため、その基盤である林道・作業道の整備を進めることとしている。また、自然に親しむ環境づくりのため、経ヶ峰を通して森林保全に対する市民意識の醸成を促進することとしている。	【費用対便益分析結果】 B/C = 65.4億円 / 49.0億円 = 1.34 【コスト縮減】 地形に沿った波形線形の採用や、路肩の縮減、コンクリート擁壁工に替えて補強土壁工を積極的に活用することにより、土工量の低減し、コスト縮減を図る。 【代替案】 当路線の利用区域内の森林整備を図る必要があることから、当林道を開設する以外に代替案はない。	コスト縮減と環境配慮に努めながら、早期完成を目指し、事業を継続する。
						}	3,977	56.4%				
						H35	-	-				

注:再評価理由

- 事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- 事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- 再評価実施後一定期間が経過している事業
- 社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

平成26年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	事業進捗状況				事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し
					採択年 }	総事業費	進捗率	事業進捗内容			
						工事費	進捗率				
						目標年 }	用地費				
林道事業	2	浅谷越線	熊野市	【全体事業概要】 延長:15,080m 幅員:4.0m 利用区域面積:1,056ha 【事業目的】 路網が未整備な熊野市北東部の森林における骨格となる林道として、森林の適正管理と森林資源の有効利用を図るとともに、運搬コストの低減などによる林業の生産性向上が期待される。また、市内を南北に縦貫する主要道路の国道42号と国道311号、熊野尾鷲道路を連絡する道路として地域道路網を形成することにより、津波などで沿岸部の国道311号が被災した場合の迂回路などとして、地域における安全確保等の役割を果たすことも目的としている。	H6	3,041	72.0%	延長:11,636m	熊野市では、平成20年度を始期とする総合計画を樹立し、木材流通の拡大を目標に掲げ、その実現のために行政が果たすべき役割として、林道、作業道の整備を上げている。 熊野原木市場における素材の取扱量及び売上高は平成13年度をピークに減少し続けていたが、平成22年度より増加傾向にある。平成24年4月に広域合併した三重くまの森林組合が、地域林業の中核的担い手として、行政機関や関係業界など一体となって、地域の森林整備と保全を進めてる。	【費用対便益分析結果】 B/C = 77.7億円 / 40.7億円 = 1.91 【コスト削減】 地形に沿った波形線形の採用や、路肩の縮減、コンクリート擁壁工に替えて補強土壁工を積極的に活用することにより、土工量の低減し、コスト削減を図る。 【代替案】 当路線の利用区域内の森林整備を図る必要があることから、当林道を開設する以外に代替案はない。	コスト削減と環境配慮に努めながら、早期完成を目指し、事業を継続する。
					H38	-	-				

注:再評価理由

- 事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- 事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- 再評価実施後一定期間が経過している事業
- 社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業